

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成31年 3月 29日

仕事の内容	生活支援ショートステイ事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 2	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書 (ページ)	51	

予算名	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業	4	高齢者日常生活支援事業費
-----	---	---	-----	---	---	-------	---	---	-------	----	---	--------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 以下の要件を満たす者 ①市内在住で住民登録され、65歳以上で要介護認定で非該当となり、養護者の疾病等により養護を受けることが困難なこと(ひとり暮らしにあっては、一時的に単身生活が困難なこと) ②虐待により一時的に保護が必要な者	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 市内65歳以上の高齢者数(平成30年4月1日現在)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 対象者にショートステイを利用してもらうことで、当該高齢者及びその擁護者の福祉向上と家庭生活の安定を図ることができている	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 利用者数(延べ利用日数)
	③ そのために何をしましたか。 在宅の高齢者を養護している家族等が疾病等の理由により在宅での養護が困難となった場合、またはひとり暮らしの高齢者が一時的に単身生活が困難となった場合に、一時的に市内特別養護老人ホームに入所させる。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 利用者数(延べ利用日数)

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	21,957	22,350	22,711	
	成果指標	②の数値	人	83	110	27	
	目 標	②の目標値	人				
		目標値設定の考え方	状況に応じて活用する制度であるため、目標設定にはなじまないものである。				
活動指標	③の数値	人	83	110	27		

3 経費	事業費(実績)		円	3,334,960	3,507,200	3,051,700	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	1,667,480	1,753,200	1,525,850	
		特定財源	円	1,667,480	1,753,200	1,525,850	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
事業費+人件費		円	4,161,660	4,332,500	3,876,100		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大い

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 平成4年に事業開始。当時は介護保険制度がなかったため、対象者は養護を必要とする常時ねたきりの高齢者であった。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 平成12年、介護保険制度開始により、本事業は要介護認定非該当者を対象とすることになった。また、虐待や認知症による徘徊高齢者を対象とした。

仕 事 の 内 容	生活支援ショートステイ事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

5 市 民 等 の 意 見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について					
	利用者の実態としては、要介護認定非該当者より、被虐待者や徘徊者などを緊急に保護するケースの方が多い。支援者であるほっと支援センター職員やケアマネジャーからは、被虐待者で保護するケースの中には、施設へ支払う一部負担金が支払えずに利用が出来ないケースがあるため、一部負担金について検討して欲しいとの声が上がった。					
6 市 民 協 働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点					
7 課 題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容					
	ホームによっては、担当窓口月になっていても受入が困難なところもあり、受入施設に偏りがある。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。					
	平成31年度よりベッド確保分で支払っていた額を減額し、実績に併せて請求してもらう形へ見直した。一部負担金についても実態に合わせて支払い困難な方について要綱を改正した。					
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題					
	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）					
	施設への支払い方法の変更したが、利用者が出た場合には引き続き利用できるように施設と調整していく。一部負担金の支払い困難な方の適用については、利用者の実態把握に努め、適正に行っていく。					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等					
	施設との調整。 実態把握においては関係機関の協力を得る。					
成 果	(3)改革・改善案による期待成果					
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。					
	成果	成果を向上させる。			経費	仕事の経費は維持する。